

世界脳卒中デーでライトアップ



シンボルカラーのインディゴブルーに照らされた大西脳神経外科病院
＝明石市大久保町江井島

大久保の大西脳神経外科

世界脳卒中機構が定めた「世界脳卒中デー」の10月29日、明石市大久保町江井島の大西脳神経外科病院が、シンボルカラーのインディゴブルーにライトアップされた。脳卒中を発症しやすい要因の大半は自力で改善できるといい、同病院は「予防が重要」としている。

世界脳卒中デーは、2006年、同機構が結成されたことを記念して宣言された。脳卒中についての認知度を高めようと、日本を含む各国で多彩な啓発活動を

展開している。同日、国内では、明石海峡大橋や東京都庁舎など50以上の建造物が、インディゴブルーの光に照らされた。

厚生労働省によると、脳卒中は日本の死因の4位で、年間約10万人が亡くなっている。また、発症した場合、まひなどの後遺症が出る人も多く、寝たきりの原因となっている。発症しやすい要因として、高血圧や不整脈、糖尿病などが上げられる。

一方で、これらの危険因子は、運動不足や喫煙、高

血圧など約9割が自力で改善できる。また、早期発見、早期治療が死亡率や後遺症の有無や程度に大きく関わるといふ。

前兆や初期症状として、顔のゆがみや片腕のまひ、ろれつが回らないなどの症状が現れる。同病院は「まずは予防として生活習慣の改善に取り組んで。初期症状が現れたら、迷わず救急車を呼んでほしい」と呼びかけている。(領五菜月)